

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 5 年 5 月調査結果 - -

( 平成 1 5 年 6 月 2 日 )

調査期間：平成 1 5 年 5 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 4 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 3 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 1  
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

### D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成15年5月調査結果のポイント】

### **業況D Iのマイナス幅は若干縮小するも、景況は依然、停滞感が続く**

5月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（50.1）よりマイナス幅が2.3ポイント縮小して47.8となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、全業種でマイナス幅が縮小したが、依然、D I値の水準は低く、中小企業の足元では、景気の見通しの不透明さと不況の常態化から、停滞感が漂っている。景気の先行きについては、公共事業の縮小や、所得の減少等に伴う消費低迷と単価下落に加え、新型肺炎SARSや金融問題などを懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、一部に「公共工事の発注が年度替りに伴い増えており、業況に好転の兆し」（管工事）との声があるものの、「公共工事の激減により、民間工事の受注競争が激化し、原価割れが続いている」（一般工事）、「採算割れの受注も限界、倒産・廃業が多発」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「取引高に好転の兆しが見え始めている」（織物外衣）といった声があるものの、「中国向け機械の受注・出荷が、SARS問題の長期化により低迷の懸念」（非鉄素形素材）と、SARSの影響を訴える声や、「出荷は上昇しても、販売価格の低下、重油の高値安定により収益の上昇はない」（窯業、土石）と、仕入コストの上昇、高止まりと売上単価の下落等による採算の悪化を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「SARSの影響により中国製品の入荷が遅れるので、仕入れ単価に影響を及ぼすと考えられる」（衣服、日用品）と、SARSの影響を訴える声のほか、「鋼材の仕入れ単価が値上がりしているが、販売単価の値上げは困難な状況で採算悪化」（各種商品）、「廃業する同業者が見受けられ、景気対策に期待したい」（農畜産水産物）との声や、金融問題について「不良債権処理促進に伴う貸し渋り、貸し剥がし懸念が再浮上」（衣服、日用品）といったコメントが寄せられている。

【小売業】では、「ゴールデンウィークの曜日の並びが悪いことや、SARSの影響により海外旅行が控えられたため、売上が好調だった」（百貨店）という声があるものの、「母の日関連の主力品である、装身具・小物・宝飾品は好調だったが、単価の高いハンドバッグ・婦人靴などは苦戦」（百貨店）、「BSE問題などがあった昨年と比べ売上は安定しているが、客単価はあまり伸びない」（百貨店）といった、単価下落を訴える声が寄せられている。

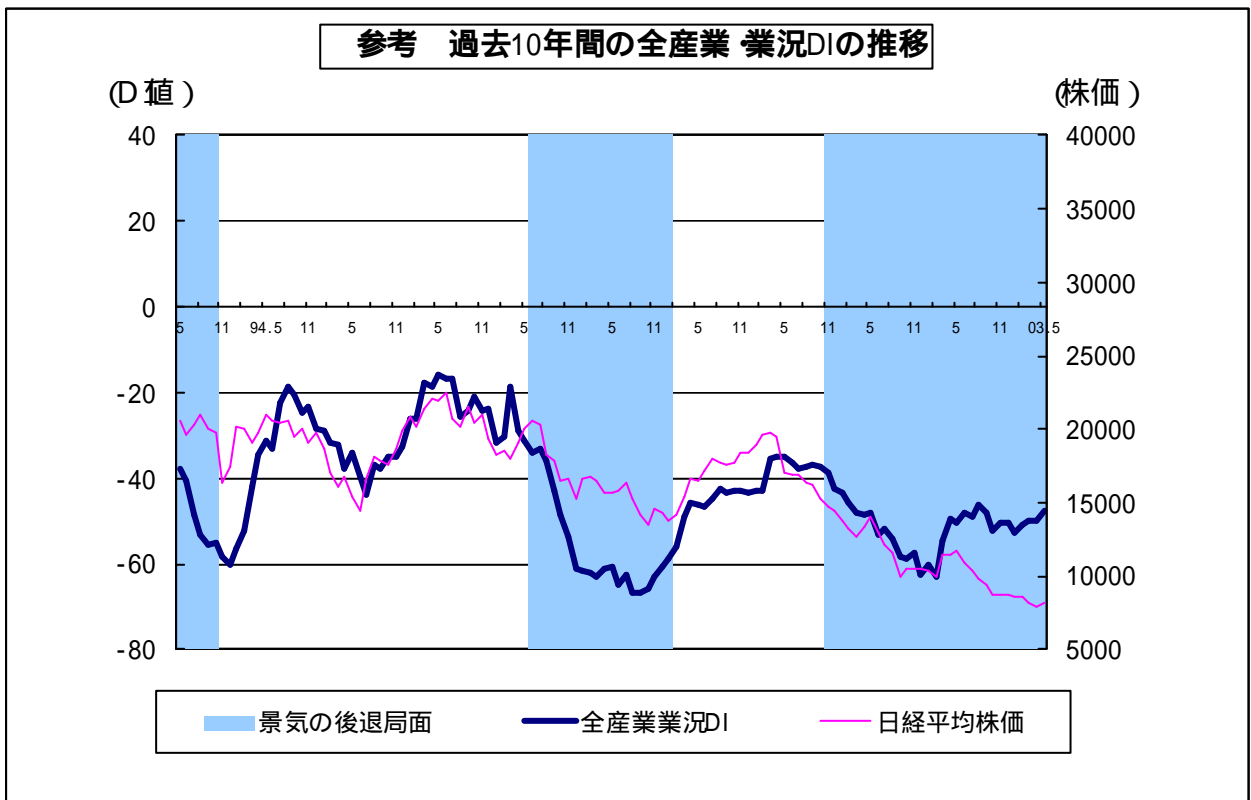
【サービス業】では、「客数、客単価とも前年を下回り、固定客の中でも官公庁、建設業関連の客数の落ち込みが特に激しい」（バー、飲食店）、「ゴールデンウィークが飛び石連休だった影響で、観光客が少なく、客単価も非常に低かった」（旅館）、「海外からの観光客を期待していたが、SARS問題で苦境」（食堂、レストラン）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売、サービスで前月水準より拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は1.5ポイント縮小して 43.6 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、建設、卸売で前月水準より拡大したが、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D I は1.9ポイント縮小して 41.6 となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(6月~8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 41.7と、昨年同時期の先行き見通し( 37.1 )と比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小、消費低迷と単価下落、SARS や金融問題などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、業種別の業況DIのマイナス幅が、全業種とも縮小したため、前月水準（50.1）より2.3ポイント縮小して47.8となった。

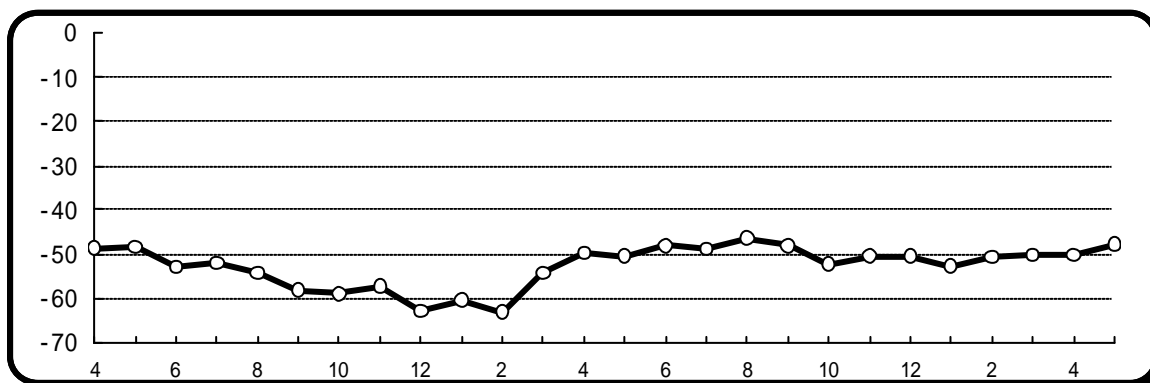
向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が41.7と、昨年同時期の先行き見通し（37.1）と比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	50.5	52.8	50.7	50.1	50.1	47.8	41.7 (37.1)
建設	63.0	65.5	64.7	64.8	64.7	63.0	56.9 (55.1)
製造	47.7	49.1	46.7	43.9	43.6	40.7	40.6 (34.3)
卸売	43.1	46.2	48.2	54.4	47.9	46.8	34.5 (37.5)
小売	48.6	51.1	48.0	49.2	48.6	46.4	36.5 (33.2)
サービス	50.4	53.4	50.2	46.2	50.0	47.4	42.1 (32.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年5月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

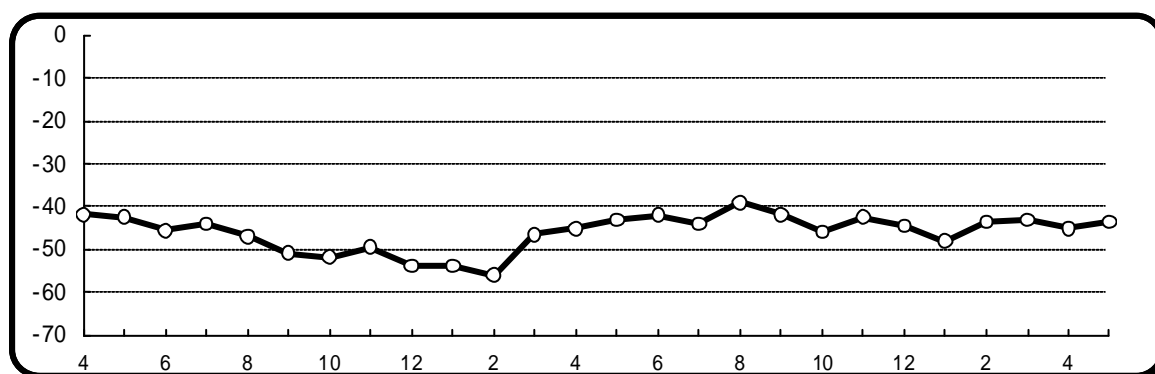
売上面では、D I値のマイナス幅は、卸売、サービスで前月水準より拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の売上D Iは1.5ポイント縮小して43.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が35.9と、昨年同時期の先行き見通し(29.2)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	14年 12月	1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	44.5	48.1	43.7	43.1	45.1	43.6	35.9 (29.2)
建設	53.9	64.4	57.1	59.0	62.9	58.4	50.2 (48.1)
製造	39.7	39.7	36.8	33.3	34.4	33.3	32.3 (26.3)
卸売	38.3	42.7	41.8	45.9	46.7	47.7	26.0 (26.3)
小売	45.9	45.7	40.8	44.9	46.6	43.3	35.6 (26.9)
サービス	44.2	51.8	46.8	39.4	42.7	43.5	35.0 (23.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

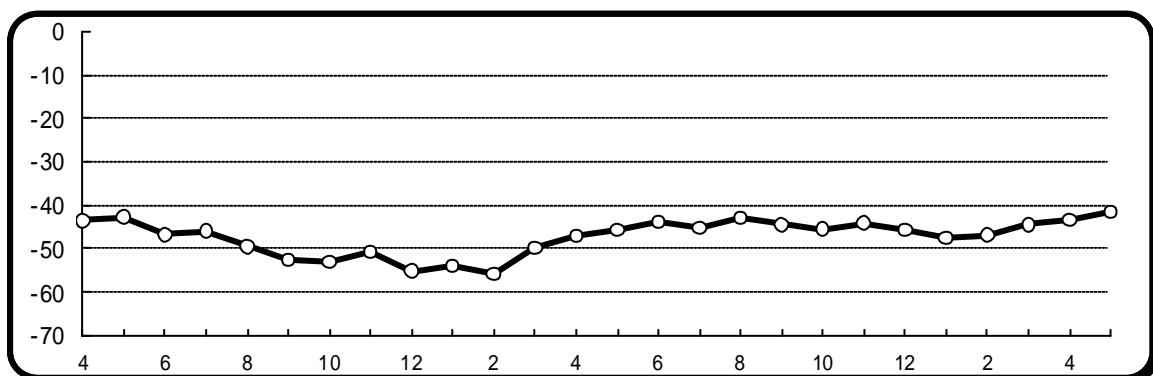
採算面では、D I 値のマイナス幅は、建設、卸売で前月水準より拡大したが、他の3業種では縮小したため、全産業合計の採算D Iは1.9ポイント縮小して41.6となり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が36.5で、昨年同時期の先行き見通し(33.3)と比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	45.7	47.6	46.9	44.5	43.5	41.6	36.5 (33.3)
建設	61.9	61.6	63.4	61.9	58.3	60.1	56.2 (53.0)
製造	48.9	47.6	46.3	42.5	39.5	37.0	35.9 (32.0)
卸売	35.3	34.5	40.0	45.0	39.6	40.7	30.6 (28.8)
小売	37.1	40.7	39.7	38.5	41.3	36.2	27.9 (26.7)
サービス	46.2	52.0	48.8	42.2	42.2	41.3	36.9 (31.1)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	35.9	37.1	38.0	37.6	36.2	32.9	32.0 (29.6)
建設	49.6	50.8	54.0	55.2	50.9	46.8	48.1 (41.4)
製造	38.4	39.8	39.6	36.6	35.5	33.8	33.5 (34.4)
卸売	27.6	28.9	31.9	31.5	34.1	28.9	27.2 (23.9)
小売	27.9	28.9	33.1	31.2	27.9	26.2	23.7 (20.6)
サービス	35.3	36.7	32.0	34.9	36.8	30.8	31.5 (29.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で悪化超感が弱まったことから、全産業合計も3カ月連続で悪化超感が弱まる。

【先行き見通しD I】製造を除く4業種で昨年同時期に比べ悪化超感が強まり、全産業合計でも悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	3.1	2.3	2.9	7.4	5.5	4.3	4.3 (1.4)
建設	3.2	1.8	0.7	2.6	2.6	2.5	5.0 (0.7)
製造	15.7	14.1	16.2	18.5	16.5	17.7	11.6 (7.6)
卸売	2.4	2.9	0.0	11.9	1.2	5.8	5.2 (2.5)
小売	5.1	4.6	7.4	1.6	1.2	6.5	2.6 (6.0)
サービス	6.0	3.0	5.0	8.2	5.4	3.2	3.7 (4.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売を除く3業種で上昇超感が弱まり、全産業合計では上昇超感が2カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】サービスで昨年同時期に比べ上昇超感が若干弱まったが、他の4業種で強まり、全産業合計でも上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	15.5	15.3	16.0	16.7	14.8	14.4	15.0 ( 14.3)
建設	33.0	31.9	35.3	36.4	33.2	34.3	32.1 ( 28.4)
製造	20.9	20.9	20.7	18.0	19.4	19.6	18.1 ( 18.3)
卸売	16.2	14.0	16.5	21.9	13.6	13.5	11.6 ( 15.8)
小売	4.2	5.8	6.7	6.6	5.1	3.6	7.9 ( 8.4)
サービス	11.4	10.0	9.5	12.2	9.6	8.9	9.1 ( 6.5)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、製造を除く 3 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 2 カ月連続で過剰超感が弱まる。

【先行き見通し D I】製造、卸売、小売の 3 業種で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まったが、建設、サービスで強まったため、全産業合計でも過剰超感が若干強まる見通し。



## 【平成15年5月の景気キーワード】

### 不況の常態化

デフレ傾向に歯止めがかからないことなどから、不況の常態化を訴える声が寄せられている。「対前年比プラス傾向だが、昨年の売上の落ち込みがひどかったため」(京都・商店街)「軽自動車・小型普通車の売れ行きは好調だが、全体の利益確保にはつながっていない」(釧路・自動車小売)「受注好転の兆しはあるが、先行き不透明」(茅野・電子部品)「市場にも購買を牽引するヒット商品もあまりない様で、勢いが感じられない」(熊本・百貨店)「極端な落ち込みはないが、例年に比べるとあまり商品の動きがない。消費者が心理的に不安になる話題が続いたことも原因と思われる」(伊那・食料、飲料卸)「一部の企業で受注量の回復がみられるものの、コストダウン要請が強く収益状況の回復には至らない」(高崎・自動車、同附属品)といった声が寄せられている。また、「酒税増税に伴い収益率が低下」(鶴岡・食料、飲料卸)と、5月1日からの発泡酒等の酒税増税の影響を訴える声や、「僅かずつだが廃業・休業が続いている」(川口・料亭)「売却したいという店舗は増えているが、なかなか買い手がいない」(宇都宮・繊維品卸)と、倒産・廃業に関するコメントや、金融問題について、「不良債権処理促進に伴う貸し渋り、貸し剥がし懸念が再浮上」(岡山・衣服、日用品卸)とのコメントも寄せられている。

### SARS問題

各業種から、新型肺炎SARSによる影響について、「中国および東南アジアでのSARSが、食品原料に影響を及ぼしてきている」(函館・水産食料品製造)「中国産の鮮魚、野菜が極端に売れなくなった」(豊岡・百貨店)「SARSの影響等で、アジア路線の減便により多大な影響を受けている」(成田・食堂、レストラン)「SARSによる海外出張の中止が増加しており、商談が進まない」(和歌山・有機化学製品)「SARSの影響でスーツケース等の売上は半減」(京都・百貨店)といった、具体的な悪影響が出はじめているとの声が寄せられている。また、台湾からの感染者が入国していた問題についても、「姫路を観光した台湾医師によるSARS騒ぎで業界もダメージを受け、売上が落ち込んでいる」(姫路・一般飲食店)「台湾などのSARS問題によってホテル業界では台湾、中国人の宿泊を断るホテルもある」(札幌・旅館)と、深刻な影響を訴える声が寄せられている。一方、「SARSにより、国内へ仕事が流れることが期待される」(今治・織物外衣製造)「SARSの影響により除菌グッズが良く売れている」(伊那・百貨店)といったコメントも寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード	
15年	3月	イラク戦争	仕入れコスト上昇
	4月	先行き閉塞感	イラク戦争・SARS
	5月	不況の常態化	SARS問題

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。一部に「公共工事の発注が年度替りに伴い増えており、業況に好転の兆し」(管工事)との声があるものの、「住宅着工件数は前年を若干上回る動きだが、持家の着工件数は減少。貸家の着工件数が増加して、全体を押し上げている」(一般工事)「公共工事の激減により、民間工事の受注競争が激化し、原価割れが続いている」(一般工事)「官公需、民需とも減少傾向に変化なく、少ない工事を受注するのに競争激化により価格低下し、また、一部資材の値上がりにより採算悪化」(一般工事)「工事完成後の未払いに悩んでいる」(土木)「採算割れの受注も限界、倒産・廃業が多発」(一般工事)といった声が寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D Iは4カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは5カ月連続でマイナス幅が縮小した。「取引高に好転の兆しが見え始めている」(織物外衣)といった声があるものの、「中国製品の使用量増大と親会社からの購買品コスト合理化の度重なる要請のため、下請業が成り立たなくなっている」(暖房装置、配管)といった声のほか、「最大の輸出市場である中国向け機械の受注・出荷が、SARS問題の長期化により低迷の懸念」(非鉄素形素材)と、SARSの影響を訴える声や、「用紙の仕入高が収益を圧迫し、当面改善の見込みも薄い」(印刷)「出荷は上昇しても、販売価格の低下、重油の高値安定により、収益の上昇はない」(窯業、土石)と、仕入コストの上昇、高止まりと売上単価の下落等による採算の悪化を訴える声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「海外商品との競争激化により販売不振で、先行き見えない」(衣服、日用品)との声や、「SARSの影響で中国製品の入荷が遅れるので、仕入れ単価に影響を及ぼすと考えられる」(衣服、日用品)と、SARSの影響を訴える声のほか、「鋼材の仕入れ単価が値上がりしているが、販売単価の値上げは困難な状況で採算悪化」(各種商品)、「廃業する同業者が見受けられ、景気対策に期待したい」(農畜産水産物)といった声や、金融問題について「不良債権処理促進に伴う貸し渋り、貸し剥がし懸念が再浮上」(衣服、日用品)といったコメントが寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「ゴールデンウィークの曜日の並びが悪いことや、SARSの影響により海外旅行が控えられたため、市街への人出が昨年より多く、売上も好調だった」(百貨店)という声があるものの、「BSE問題などがあった昨年と比べ売上は安定しているが、客単価はあまり伸びない」(百貨店)「母の日関連の主力品である、装身具・小物・宝飾品は好調だったが、単価の高いハンドバッグ・婦人靴などは苦戦」(百貨店)と単価下落を訴える声や、「客層の変化による店舗の撤退で空き店舗が増えており、業種間の偏りが顕著に見られる」(商店街)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「客数、客単価とも前年を下回り、固定客の中でも官公庁、建設業関連の客数の落ち込みが特に激しい」(バー、飲食店)「ゴールデンウィークが飛び石連休だった影響で、観光客が少なく、客単価も非常に低かった」(旅館)「海外からの観光客を期待していたが、SARS問題で苦境」(食堂、レストラン)「連休中も厳しい状態だったが、ファミリー向けの店舗には客が集中した」(食堂、レストラン)との声の一方、「前年と比較した落ち込みは少なくなってきた」(理容)「住民基本台帳ネットワークの年次処理が、本稼動して以来初めて行われるなど、新規案件の受注増が目立つ」(ソフトウェア)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）をみると、北海道、東海、四国を除く6ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも縮小した。

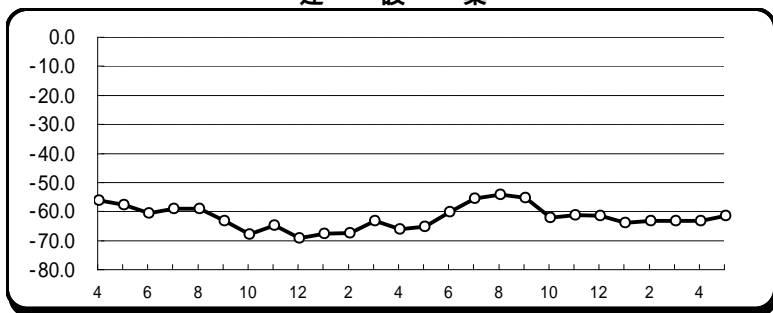
ブロック別の向こう3カ月（6月～8月）の業況の先行き見通しは、東北、四国を除く7ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ下向いており、全ブロック合計でも下向いている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

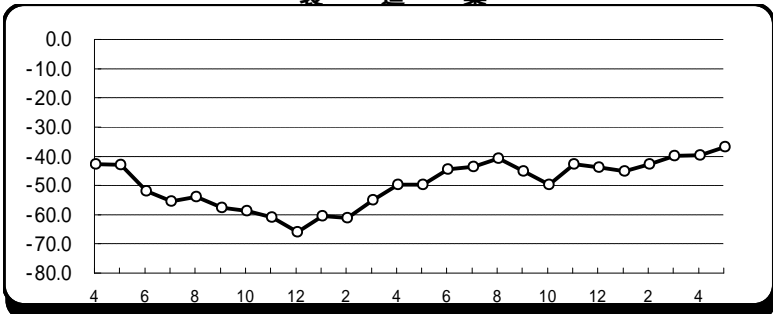
	14年 12月	15年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	50.5	52.8	50.7	50.1	50.1	47.8	41.7 ( 37.1)
北海道	51.1	55.7	44.4	46.2	44.3	47.0	40.2 ( 35.8)
東 北	46.0	52.6	55.2	54.7	54.7	46.8	44.3 ( 50.6)
北陸信越	46.5	51.3	51.1	49.2	47.3	44.3	35.3 ( 33.5)
関 東	52.9	54.5	50.0	54.7	50.9	47.4	39.1 ( 31.5)
東 海	49.7	45.5	41.4	43.6	45.4	50.3	45.0 ( 34.1)
近 畿	52.2	54.3	53.7	49.6	50.9	49.6	50.9 ( 45.6)
中 国	45.3	50.3	52.7	48.7	56.8	45.1	41.7 ( 35.8)
四 国	62.6	65.5	58.2	56.6	45.9	51.8	37.7 ( 41.8)
九 州	47.5	48.1	50.3	43.3	51.1	47.9	39.2 ( 31.6)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

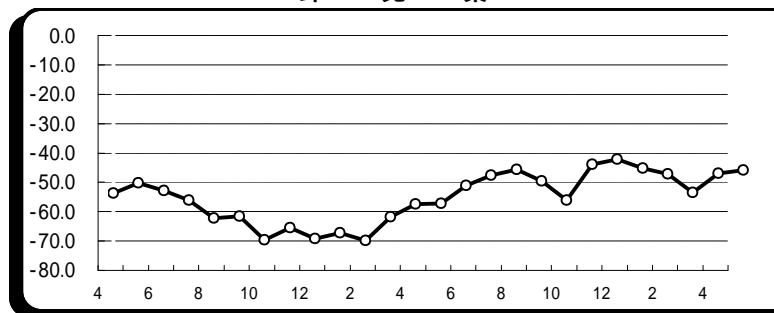
## 建設業



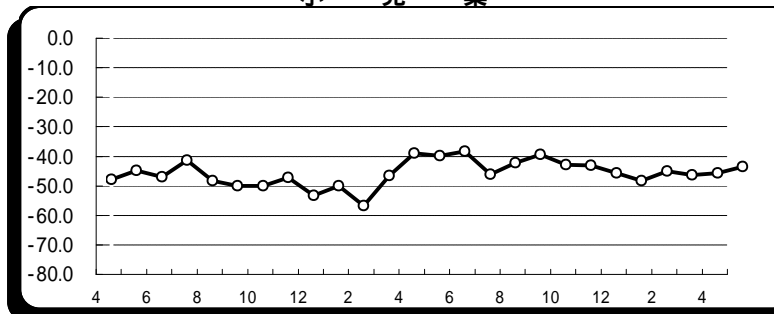
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

